

木耐博士N 旧ソフト（木耐博士S）からの帳票上の変更点

2013.4.1 エイム株式会社

ページ	木耐博士N	木耐博士Sの ページ(参考)	木耐博士Nでの変更点
1	表紙	1	「診断者情報」が総合評価から移動
2	総合評価	2	建物概要:「下屋部低減係数」が平屋のみに 建物概要:「床仕様」に「想定床倍率」を追記 建物概要:「地盤による割増係数」を追加 (必要耐力の算出部分には引き続き表示) 上部構造の評価:配置による低減係数・劣化度の表示を小数第4位まで表示 グラフの形状の変化 積雪の設定がある場合、積雪を考慮に入れた場合の評点と無積雪時の評点をグラフの下に併記
3	地盤・基礎	6	地盤を「よい・普通」「悪い」「非常に悪い」に分類 基礎に「無筋コンクリート:軽微なひび割れ(仕様II)」を追加 「無筋コンクリート:ひび割れ」の仕様がIIIに変更
4	1階平面図	3	1階・2階の平面図左下部分に、使用されている下地材を凡例として表示
5	2階平面図	4	色による下地材の強さの表示を変更 (~2.5~4.0~6.0~→~3.0~5.0~7.0~)
6	基礎伏図	5	変更なし
7	必要耐力の算出	9	建物の重さの記述を追加 「地盤による割増係数」が総合評価から移動 「総2階・総3階を想定した方法」使用時には「耐力要素の配置による低減係数用必要耐力」を表示(精算法の場合には表示しない) 精算法使用時、床面積当たりの必要耐力算出根拠の計算式を追加 床面積当たりの必要耐力の表示を小数第4位までに
8	壁・柱の耐力(2階X方向)	13	「壁・柱の耐力」に「開口部の耐力」を追加 「接合部耐力低減」の先頭に「壁端柱の柱頭・柱脚接合部の種類による耐力低減係数」の表のうち、どれを引き当てているかを表示(指針編p.32。積雪時の計算の場合は指針編p.33~34)
9	壁・柱の耐力(2階Y方向)	12	
10	壁・柱の耐力(1階X方向)	11	
11	壁・柱の耐力(1階Y方向)	10	
12	耐力要素の配置等による低減係数eKfl	8・9	配置による低減係数は小数第4位まで表示
13	耐力要素の配置等による低減係数eKfl	8・9	4分割法の場合には各階・各方向ごとの配置による低減係数の計算過程を表示
14	耐力要素の配置等による低減係数eKfl	8・9	偏心率の場合には下記の情報を表示 偏心率(各階・各方向) 剛心座標・重心座標・偏心距離・弾力半径・偏心率(各階・各方向)
15	耐力要素の配置等による低減係数eKfl	8・9	床面積の計算(各階) 重心位置の計算(各階) 壁の情報(各階・各方向)
16	必要耐力の算出(高評点)	-	積雪の設定がある場合、積雪時・無積雪時の評点を比較し、評点が高い方の計算過程(必要耐力、壁・柱の耐力、耐力要素の配置等による低減係数)を表示
17	壁・柱の耐力(2階X方向)(高評点)	-	
18	壁・柱の耐力(2階Y方向)(高評点)	-	
19	壁・柱の耐力(1階X方向)(高評点)	-	
20	壁・柱の耐力(1階Y方向)(高評点)	-	
21	耐力要素の配置等による低減係数eKfl(高評点)	-	
22	耐力要素の配置等による低減係数eKfl(高評点)	-	
23	耐力要素の配置等による低減係数eKfl(高評点)	-	
24	耐力要素の配置等による低減係数eKfl(高評点)	-	
25	劣化度による低減係数dK	7	劣化度による低減係数の表示を小数第4位まで表示

※「木耐博士Sのページ」は出力する内容により、上記と異なる場合があります。